



放送局・報道機関として、北海道民に正確な情報を届け、日本全国や世界に向けても、北海道の情報を発信することを使命としている札幌テレビ放送株式会社。STVの愛称で北海道民から広く視聴されている同局では、事務系・報道系・放送設備系システムのエンドポイントセキュリティを強化するために、Sophos MDR Essentialsサービスを導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE

STV 札幌テレビ放送

札幌テレビ放送株式会社

本社所在地 〒060-8705

札幌市中央区北1条西8丁目1番地1

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Essentials



アラートハンドリングはプロに任せるべき、
という経営判断から、Sophos MDR Essentialsを
導入することになりました。

札幌テレビ放送株式会社
ビジネス推進本部
ビジネスプロデュース局
デジタル戦略部 兼 DX推進部付
阿部 健一 氏

北海道民に最も信頼され支持される放送局を目指している札幌テレビ放送株式会社。同局は年度視聴率で「15年連続三冠達成」し、年度全日視聴率でも「31年連続トップ」の記録を更新している。同局のDX推進部では、シグネチャベースのアンチウイルスソフトを使い続けるセキュリティ対策に疑問を感じ、定期的が発生するソフトウェアのバージョンアップも運用上の負担となっていた。そこで、MDRサービスまでワンストップで提供しているSophos Intercept X Advanced with XDRの検知機能を高く評価して、Sophos MDR Essentialsサービスを導入した。

ビジネスチャレンジ

「旧世代のアンチウイルス対策への不安と運用負担が課題」

札幌テレビ放送株式会社のビジネス推進本部で、局内のITシステム全般の構築や運用を担ってきたビジネスプロデュース局 デジタル戦略部 兼 DX推進部付の阿部健一氏は、以前のセキュリティ対策における課題を次のように振り返る。

「2022年5月まで、シグネチャーベースのアンチウイルスを業務で利用するPCやサーバに導入していました。オンプレミスによる

運用だったので、ソフトウェアのバージョンアップなどが定期的が発生し、運用上の負担を感じていました。2020年くらいから、ランサムウェアを中心としたサイバー攻撃による被害も数多く報道されていたので、旧世代のアンチウイルス対策で防御できるか疑問に感じていました」。

同じくビジネスプロデュース局でセキュリティ対策の強化を管理面からサポートしてきたDX推進部長の松野史氏は、その取り組みを次のように話す。

「当社では、ある一定の設備の導入には、社内委員会の承認が必要になります。セキュリティ対策のためのソフトには、どれだけの予算

をかけたらいいいのか、難しい判断が迫られました。そこで、阿部さんが中心になって、セキュリティ対策の強化を推進してもらいました」。



札幌テレビ放送株式会社
ビジネス推進本部
ビジネスプロデュース局
局次長 兼 DX推進部長
松野 史氏

テクノロジーソリューション

「各社の製品を比較検討しSophos Intercept X Advanced with XDRに注目」

セキュリティ対策の強化にあたり阿部氏は「エンドポイントセキュリティの選定では、複数のEDR製品のメリットとデメリットを中

立的な立場で解説してもらえるリコーージャパンに相談しました。検討の初期段階では、特定のソフトに絞らずに、当社が求める次世代アンチウイルス性能とEDR機能を備えた製品を紹介してもらいました。各製品の特徴を理解していくうちに、Sophos Intercept X Advanced with XDRの幅広い保護機能に注目しました。また、MDRサービスをワンストップで提供している点も魅力でした。2021年に検討を開始した当初から、監視サービスは実装したいと考えていましたが、具体的な被害も生じていない中、予算の確保が難しかったです」と検討の経緯に触れ、「ソフォス以外の製品では、自社でMDRサービスを提供していないので、第三者機関のSOCサービスなどを組み合わせる必要がありました。各社の見積もりを比較検討してみると、あるEDR製品の価格と、監視サービスが提供されるSophos MDRサービスの価格が、ほぼ一緒でした。それならば、最初にSophos Intercept X Advanced with XDRを導入して、将来的に社内委員会の承認が得られたら、Sophos MDR Essentialsサービスにアップグレードすればいいと判断しました」と選定の理由を語る。

ビジネスインパクト

「アラートハンドリングはプロに任せるべき、という経営判断によりSophos MDR Essentialsを導入」

24時間365日の監視機能を含むSophos MDR Essentialsの導入を見据えた形で、2022年5月からSophos Intercept X Advanced with XDRの運用がスタートした。導入の効果について、阿部氏は「フリーウェアのバックアップソフトを起動した局員がいて、そのときにSophos Intercept X Advanced with XDRが、ランサムウェア攻撃だと判断して、バックアップを遮断したことがありました。結果として、ランサムウェアを防御する様子を具体的に体験し理解できたので、万が一の攻撃にも安心できると感じました。また、管理機能もクラウド化されたので、アップデートやサーバ管理などからも開放されました」と話す。そして「旧世代のアンチウイルスと比較して、Sophos Intercept X Advanced with XDRのアラート検出数は、2倍以上に

なりました。しかし、アラートの詳細を調査できる割合は、わずか4%にとどまるという、人的な対応の限界も実感しました。2022年は年初からウクライナ問題など世界情勢が緊迫化し、サイバーテロも活発化してきました。そのため、アラートハンドリングはプロに任せるべきだ、という経営判断をいただき、社内委員会の承認を得て、Sophos MDR Essentialsを導入することになりました」と阿部氏は補足する。Sophos MDR Essentials導入の効果について、松野氏は「ライセンスの適用のみだったので、更新は容易でした。Sophos MDR Essentialsの導入後は、プロが対応しているという安心感を得られました。重要度の高いアラートに対しては、調査結果がフィードバックされるので、私たちも安心して他の業務に集中できるようになりました」と評価する。

フューチャービジョン

「ユーザー向けセキュリティの啓蒙と教育を計画」

Sophos Intercept X Advanced with XDRからSophos MDR Essentialsの導入までをサポートしてきたリコージャパンに対して、阿部氏は「当社のニーズを的確に把握してもらい、MDRサービスをワンストップで提供しているSophos製品の提案には感謝しています。放送設備のクラウド活用も進む中、エンドポイント・境界それぞれを統合的に管理し、脅威を把握できるように、情報収集を継続します。今後は、技術面だけではなく、ユーザーのセキュリティ意識を高めるための啓蒙と教育にも力を入れる必要性を感じています。リコージャパンとSophosには、引き続き最適な製品やサービスの提案を期待しています」と語る。

